

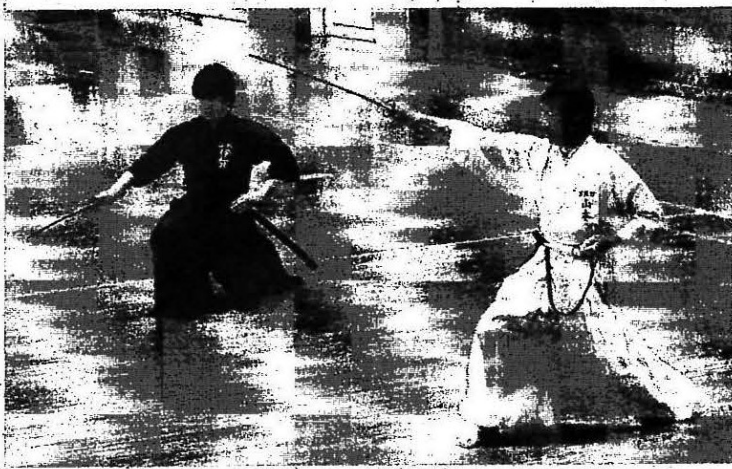
村山市は、同市出身の剣豪・林崎基助重信が始祖とされる居合（抜刀術）を通し、情報発信や観光振興を図る取り組みを進めている。居合道に取り組み、剣士だけでなく、広く一般の人にも居合に親しんでもらうことで市の知名度を上げ、誘客につなげていこうと、関係者は知恵を絞っている。

居合は戦国時代、重信が暗殺された父のあだ討ちをするために剣術の修行を重ね、地元の林崎明神（熊野明神）から極意を授かったと伝えられている。重信は死後、居合明神として熊野明神に合祀（ごうし）され、同市の熊野居合両神社（通称・林崎居合神社）には全国で唯一、居合の神が祭られている。

重信が基礎を確立した居合道は現在、国内外に広がっており、発祥の地とされる村山市には各地から多くの剣士が訪れている。剣の腕前の上達を願うため、林崎居合神社に参拝したり、神社脇の村山居合振武館で演武を行ったりしている。同市で開かれる全国大会は恒例となり、昨年は約

「居合 発祥の地」として発信 村山

2016年6月に村山市で開かれた居合道の全国大会で鍛錬の成果を披露する出場者。同市は居合を通じた観光振興などに取り組んでいく



美佳さん（尾花沢市出身）による小説「ICHIIJIN（いちじん）」も連載中だ。一方、居合を観光の視点からPRする方策として、居合道の見学や体験を含めた着地型観光商品の造成も進めている。市が市観光物産協会に事業を委託し、昨年度から関係者がワークショップを行うなどして検討を重ねており、本年度中の商品化を目指している。

体験など誘客策を検討

市の魅力知る入り口に

400人が出場し、日頃の鍛錬の成果を披露した。こうした来訪や催しなどを通し、市内外で居合に対する関心が少しずつ高まってきている。そこで市は、武道としての居合道の振興だけでなく、居合を、市の情報発信や

観光誘客を図る取り組みに力を入れ始めた。情報発信関連では、ウェブサイトを昨年開設し、居合の成り立ち、林崎基助重信の人物像やゆかりの地を取り上げている。映画「いしや先生」後の展開に注目したい。

（村山支社・手塚秀雄）

金曜トピック